

第IV部 調査テーマへの自由意見

調査テーマへの自由意見

質問の最後に、調査テーマに対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,264人のうち、14.8%に相当する187人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 食・食育

- 食べ残し、廃棄される食品を少なくする取組をしてほしい。作るばかりではなく消費する方法を考えてほしい。食育、子どもの貧困を考えるなら、親（特に母親）が子どもと家庭で接し、子育てをする時間が必要だと思う。子どもを育て教育するのは親で、それを、子どもが実践するところが社会だと思う。実践するところをサポートしたい（社会人として）。

（相模原・女性・50歳代）

- 食育は、とても大事なテーマだと思います。小さいころからの食育がきちんとできていれば、健康面では生活習慣病の予防につながりますし、心の面でも良い影響をたくさん与えます。食育推進にあたっては、学校給食はとても大きな役割を担います。なぜ神奈川県は、こんなにも中学校給食の実施率が低いのでしょうか。大阪のように県が大きくかじをとることも大事だと思います。横浜市民ですが、横浜も実施に前向きになってほしいです。

（横浜・女性・30歳代）

(2) とともに生きる社会かながわ

- とともに生きるかながわ憲章があるのを初めて知りました。ポスター、チラシ等で広めてほしい。（横浜・男性・75歳以上）
- 「とともに生きる社会かながわ」「SDGs」について具体的なPR活動が足りないと思う。「とともに生きる」という文章は目にしますが、神奈川県、神奈川県議会として具体的に取り組んだ内容が全く分からない。（湘南・男性・60歳代）

(3) 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組

- オリンピックも日本で見られるのはいいですが、最近は暑さが厳しいので、わざわざ見に行くのは難しいです。（相模原・女性・70～74歳）
- ラクビーワールドカップや、東京オリンピック・パラリンピックなど、単発で行われるイベントについて細かく質問する意図がよく分からない。もっと長期的な県の施策についてのアンケートかと思った。（県央・女性・40歳代）
- 東京2020オリンピックについて。日々子育てや家のこと、PTA活動など慌ただしく過ごしていたら、いつの間にか観戦チケットの申込みや抽選が行われており…完全に乗り遅れてしまいました。長男が学校から「学校連携観戦チケット」についてのアンケートを持って帰ってきて、これはすばらしい！！と思いましたが、競技も限られているようです。地元神奈川県で行われる競技などについて、これからの日本を担う子どもたちのために、優先的にいろいろなスポーツのプロフェッショナルな選手たちを近くで見る機会を与えてほしいな、と思います。（湘南・女性・30歳代）

(4) 水源環境保全・再生の取組

- 自然、特に河川の景観はとても重要だと思います。河川は結構目に触れることが多く、河川がきれいだとその街はきれいなのだと再認識できると思うからです。(横浜・女性・20歳代)
- 特にプラスチックゴミは将来のため早急に取り組むべき重要な問題だと思います。個人的には、買い物にマイバックを利用し、何度も繰り返し使えるものを使うようにしたいです。企業にはプラスチック包装をできるだけ減らし、自然素材の代替品を使用するようお願いしたいです。(横浜・女性・50歳代)
- 水源環境保全・再生に関する現在の取組の財源が、何にどのくらい使われているかが書いてあれば、分かりやすいのと思いました。(相模原・女性・50歳代)
- プラスチック問題等、スローガンや、やっている感だけでなく、本質的に対策すべき問題を県民に適切に知らせ、対策を立てることを大切にしてもらいたい。(川崎・男性・50歳代)

(5) 神奈川県の農林水産業

- 農地の保全について、農地の現況を役所は管理し、後継者がいない場合は、現役時代から積極的に相談に乗り、後継者を作るようにしてほしい。また、荒地にならないように法人組織を作り、作物を作るようにしてほしい。(湘南・女性・75歳以上)
- 農林水産業の発展などは、神奈川県の土地柄難しいところもあると思う。日本全体でとらえ、発展させるべき、もしくは発展可能な地域で推進し、神奈川県は、神奈川県の得意な分野を発展させれば良いと思う。(川崎・女性・30歳代)

(6) 持続可能な開発目標 (SDGs)

- SDGs のところで思うことは、マイバッグ持参は良いことだが(政府もレジ袋有料化を決定したし)、実際のゴミ出しはスーパーのレジ袋を使うため、この取組は、ある意味、人々からお金を更に引き出すためのものだと思う。余裕がないのに。環境対策というのならば、環境にやさしいレジ袋を作ればよい。また、貧困の人たちを守るというのならば、その人たちにはレジ袋代を払わせないで、と言いたい。何か変だ。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 神奈川県は、海、川、水が最大の自然資源です。その意味で、SDGs の活動目標の一つとして、海でのイベント、活動などを多様化させ、海、川、水への県民の関心度を更に高めていくことが必要だと考えます。神奈川県に居住していながら、リゾートは他県の海へ行かれる方が多いように思います。(横浜・男性・70~74歳)

(7) 子どもの貧困対策

- 生活保護、ひとり親等の支援は重要だが、高級車に乗ったりしている親もいるので、審査を徹底してほしい。(湘南・男性・60歳代)
- 子どもの貧困については、親としての自覚をもう一度、きちんと考え直してほしいと思ってしまうような人々もいると思います。(川崎・男性・50歳代)
- 貧困については、本当に必要としている人たちに十分な支援をしていただきたいです。ひとり親だから、生活保護だからと必要以上の支援が受けられるよりも、就業支援や子育て支援等、自分の力で生活していけるように支援をしてほしいと思います。(横浜・女性・20歳代)

- 子どもの貧困、障がい者の支援など社会的弱者への支援の強化を望んでいます。
(横浜・女性・40歳代)
- 子どもの貧困対策について、子どもを育てる責任は親にあります、それができない親が多くなっているのが現実です。親に問題がある場合、子どもは自立したいと思っても相談できる場所がなく、自立の機会を親に奪われてしまう子もいます。親を支援することも必要かもしれませんが、子ども自身がどうしたら自立できるのかを教えてあげられる大人や相談できる所が必要だと思います。専門学校で教員をしている主人が、資格を取らせて就職させ、話をとことん聞き、救ってきた子どもが何人もいます。未来ある子どもを救ってほしいです。
(県西・女性・40歳代)
- 子どもの貧困について述べます。子どもの貧困は、いわゆる所得の再生産が行われるのが一番の問題であると思う。では、なぜ所得の再生産が行われるのか。それは、今の社会が学歴・勉強の成績で企業等が採用を考えるからだ。そもそも勉強などは、仕事の出来・不出来の物差しにできない。そうであるならば、もう勉強などで子どもを計るのはやめるべきだ。大学はもっと少なくてもいい。若いうちに仕事をさせて、仕事ぶりで能力を計るべきだ。
(川崎・男性・30歳代)
- 生活保護や子どもの貧困について、厚かましい人は偽装離婚などで母子手当を得ている。もっと地道に頑張っている母子・父子家庭や、生活保護を受けずに頑張っている人が救われてほしい。(相模原・男性・40歳代)

(8) 治安対策

- 防犯カメラは事件が起きた時に役立つので、積極的に取り付けてもらいたいです。
(川崎・女性・50歳代)
- 治安対策について、最近、暴走自転車が多い気がします。歩道を堂々と走っています。私もぶつかられたことがあります痛い思いをしました。相手はサーッと行ってしまいました。友人は歩道で自転車走行をよけ地面に手をつき、複雑骨折しました。もちろん相手はサーッと行ってしまいました。歩道なのだから、安心して歩きたい！歩道走行は、若いママに多いように思います。多忙なのか、猛スピードで走っています。注意してください。
(湘南・女性・60歳代)
- 地域の見周りを徹底してほしい。(湘南・女性・70～74歳)
- テレビで殺人が報道されると自分の住んでいる地域は大丈夫なのかと不安になります。自分の住んでいる地域は具体的にどんな対策が取られているのか気になります。インターネットやSNS等で簡単に分かるようになると良いと思います。(川崎・女性・30歳代)
- 自転車の逆走、歩道走行の取締りを徹底。親がルールを知らない→子どもが知るよしもない。交通安全協会は、車のみならず自転車の教育も！(横浜・男性・60歳代)
- スピード違反などの取締りを、交通量の多い時間帯にやるべきだと思います。単に、「やります」的な感じがして仕方がない。(湘南・女性・40歳代)
- スマホ運転を見かけることがあります。徹底的に取り締まってほしい。県内の凶悪事件の多さには悲しくなります。とにかく何とかしてほしい。(湘南・女性・40歳代)

- 交通事故に関して、小学校などのスクールゾーン対策協議会などで身近に危険を感じる場所や、保護者自ら見てまわった感想や意見をまとめています。ぜひそれらの意見、要望を参考にさせていただきたいです。(横浜・女性・30歳代)

(9) 県政一般

- 市政に比べ、県政は、身近に感じる事が少なくなっている。県の財政が以前に比べて苦しくなり、神奈川県政がスローガンや言葉をいろいろ出しているが、それらが実際に取り組みられているような実感がない。もっと県政のテーマを絞り、目標を具体的に立てて実行する必要があるのではないかと。何をやっているのか県民に伝わっていない。言葉の羅列より、実のある取組を望む。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- 様々な取組をされていますが、県民はそれを十分に知ることができていません。テレビやインターネットでは正しい情報が得られないので、広報紙の配布、防災無線の利用、地域住民の交流、情報交換の場等を用いて知る機会を増やしてほしいです。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもが伸び伸びと外で遊べるような環境整備(公園の整備→熱中症対策のため、日射しを避ける場所が砂場などにほしい。治安改善、安全な歩道の確保など)をお願いします。(川崎・女性・30歳代)

(10) その他

- 神奈川県人として自慢できることを知りたい。私は郷里から出てきて40年住んでいるが、言えないことが疑問です。(県央・男性・60歳代)
- 結論ありき、アリバイ作りの調査はやめてもらいたい。設問そのものに誘導が感じられ不快(横須賀三浦・男性・70~74歳)
- 県民が期待するアンケートとなっていない。テーマが行政視点になっていて自由度がなさすぎた。(県央・男性・50歳代)
- 質問が多岐にわたっているので、アンケートの意図が図りかねるが、本当にこのようなアンケート調査で施策・政策に何かアドバイスできるのか多いに疑問に思う。作った人も、これから処理する人も自己満足になっていないか。(横浜・男性・60歳代)
- 量が多すぎる。(川崎・男性・50歳代)
- 自分の生活に身近で関心のあるテーマが多かった。(湘南・女性・60歳代)
- それぞれのテーマについて教宣活動が少ないと思う。効果のある広報活動を考えてほしい。「行政ではこのようにやっています」という設問が多いが、県民に対する浸透度の評価はあまり聞かない。浸透させるための方策に配慮してほしい。(横浜・男性・70~74歳)
- アンケートのテーマに全部感心があり、とても勉強になりました。(横浜・女性・60歳代)
- ひきこもりや虐待も多いのでは。未成年の性教育、モラル(もう親の世代からでしょうか?)(県央・男性・60歳代)
- 生活保護のシステムをもう少し考えた方がいいと思います。少しでも働くと援助を減らされるので働かない方がいい、と言っている人がいます。働く意欲が湧くようなシステムになるとよいと思います。(湘南・女性・50歳代)

- 設問はともかく、回答内容をもう少し精査した方がより良い回答が得られると思う。特に選択問題(横浜・男性・50歳代)
- 介護に関するテーマがありません。高齢化の重要なテーマであり、行政サービスの充実を期待します。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- この歳になるまで、県の施策に無関心であったことをつくづく感じました。あと何年生きられるか分かりませんが、いろいろな面で自分のできることは積極的にやっ行ってこうと考えるようになりました。県の広報誌(紙)は良く見るようにします。(県央・男性・60歳代)
- 県の取組をほぼこの調査票で知りました。年1回でもいいので、紙媒体でお知らせなどがあると助かります。なかなか自分で情報を見に行こうとはしないので。もしくは公共機関の駅などにポスターなどのお知らせがあると分かりやすいかもしれません。
(相模原・女性・40歳代)
- 調査結果の提示とその後の取組の変化について県民への共有をお願いします。回答者だけでも、興味・関心を持つことができればそれが前進になると思います。(川崎・男性・20歳代)

